

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	:	ジエチレングリコールモノメチルエーテル
SDSコード	:	A9-01
供給者の会社名称	:	
林純薬工業株式会社		
住所	:	大阪府大阪市中央区内平野町3丁目2番12号
電話番号	:	06-6910-7305
E-mail	:	shiyaku_kikaku@hpc-j.co.jp
URL	:	https://direct.hpc-j.co.jp/
緊急連絡電話番号	:	06-6910-7305
推奨用途	:	試験研究用
使用上の制限	:	人体又は動物用の医薬品、食品、家庭用品、化粧品等には使用しない事

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理的危険性	爆発物	区分に該当しない	
	可燃性ガス	区分に該当しない	
	エアゾール	区分に該当しない	
	酸化性ガス	区分に該当しない	
	高圧ガス	区分に該当しない	
	引火性液体	区分 4	
	可燃性固体	区分に該当しない	
	自己反応性化学品	区分に該当しない	
	自然発火性液体	区分に該当しない	
	自然発火性固体	区分に該当しない	
	自己発熱性化学品	分類できない	
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない	
	酸化性液体	区分に該当しない	
	酸化性固体	区分に該当しない	
	有機過氧化物	区分に該当しない	
	金属腐食性化学品	区分に該当しない	
	鈍性化爆発物	区分に該当しない	
	健康有害性	急性毒性(経口)	区分に該当しない
		急性毒性(経皮)	区分に該当しない
		急性毒性(吸入:気体)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)		分類できない	
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)		区分に該当しない	
皮膚腐食性/刺激性		区分に該当しない	
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性		区分に該当しない	
呼吸器感作性		分類できない	
皮膚感作性		区分に該当しない	
生殖細胞変異原性		区分に該当しない	
発がん性		分類できない	
生殖毒性		区分 1B	

環境有害性	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 3 (麻酔作用)
	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分に該当しない
	オゾン層への有害性	分類できない

絵表示  
(GHS JP)



GHS07



GHS08

注意喚起語 (GHS JP)	: 危険
危険有害性 (GHS JP)	: 可燃性液体 (H227) 眠気又はめまいのおそれ (H336) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)
注意書き (GHS JP)	
安全対策	: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202) 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210) 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。(P261) 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271) 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
応急措置	: 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340) ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313) 気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312) 火災の場合: 消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
保管	: 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	: 内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
別名	: メチルカルビトール、2-(2-メトキシエトキシ)エタノール

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
ジエチレングリコールモノメチルエーテル	≥98.0%	C5H12O3	(2)-422,(2)-2979,(7)-97	既存化学物質	111-77-3

上記濃度又は濃度範囲は、規格値ではありません。

上記濃度又は濃度範囲に記載の%は、個別表記があるものを除き、全て重量%となります。

### 4. 応急措置

#### 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに医師に診断／手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。 多量の水と石鹼で優しく洗うこと。 直ちに医師に診断／手当てを受けること。

- 眼に入った場合 : 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に診断/手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせないこと。  
口をすすぐこと。  
直ちに医師に診断/手当てを受けること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 周辺火災に応じて、適切な消火剤を使用する、水噴霧、耐アルコール泡消火剤、二酸化炭素、乾燥粉末消火剤、砂
- 使ってはならない消火剤 : 強い水流は使用しない。
- 火災時の危険有害性分解生成物 : 火災時に刺激性もしくは有毒なフュームまたはガスを発生する。
- 消火方法 : 着火した場合、初期消火は、火元(燃焼源)を断ち、適切な消火剤を用いて一挙に消火する。  
周辺火災の場合、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。  
移動不可能な場合、容器及び周囲の設備等に散水し、冷却する。
- 消火時の保護具 : 消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。  
関係者以外の立ち入りを禁止する。  
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
作業の際には、吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、必ず適切な保護具を着用し、風下で作業行わない。

### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。  
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

### 封じ込め及び浄化の方法及び器材

- 浄化方法 : 漏出は、吸収剤を使用してできるだけ素早く回収する。  
できるだけ液体漏出物は密閉容器に回収する。  
回収跡は多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用して作業する。  
漏れ、あふれ、飛散しないように取扱い、ミスト、蒸気の発生を少なくし、換気を十分にする。
- 安全取扱注意事項 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗いうがいをする事。  
作業所の十分な換気を確保する。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。
- 接触回避 : 長時間または反復の暴露を避ける。

### 保管

- 安全な保管条件 : 施錠して保管すること。  
直射日光を避け、換気の良い場所に保管する。容器を密閉し、火気、熱源より遠ざける。
- 安全な容器包装材料 : 遮光した気密容器。

- 技術的対策 : 適用法令を遵守する。  
保管温度 : 冷暗所保管

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策 : 取扱場所での発生源の密閉化、または局所排気装置、全体換気装置の設置。取扱い場所の近くに安全シャワー、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

### 保護具

- 皮膚及び身体の保護具 : 不浸透性前掛け、不浸透性作業衣、不浸透性長靴  
眼の保護具 : 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)  
手の保護具 : 不浸透性保護手袋  
呼吸用保護具 : 有機ガス用防毒マスク

## 9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体  
外観 : 液体  
色 : 無色透明  
臭い : 弱い芳香臭  
pH : データなし  
融点 : データなし  
凝固点 : データなし  
沸点 : 193 ° C  
引火点 : 93 ° C (クリーブランド開放式)  
自然発火点 : データなし  
分解温度 : データなし  
可燃性 : データなし  
蒸気圧 : 30 Pa (20°C)  
相対密度 : データなし  
密度 : 1.02 g/cm<sup>3</sup>  
相対ガス密度 : データなし  
溶解度 : 水に易溶。  
n-オクタノール/水分配係数(Log Pow) : データなし  
爆発限界 (vol %) : 1.6 - 18.1 vol % (空気中)  
動粘性率 : データなし  
粒子特性 : データなし

## 10. 安定性及び反応性

- 反応性 : データなし  
化学的安定性 : 通常の実験条件では安定である。  
危険有害反応可能性 : 強酸化剤と反応する。爆発性過酸化物を生成することがあると推測される。93°C以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
避けるべき条件 : 日光、熱、火花、裸火、静電気等の発火源。強酸化剤との接触。  
混触危険物質 : 強酸化剤  
危険有害な分解生成物 : データなし

## 11. 有害性情報

ジエチレングリコールモノメチルエーテル	
急性毒性(経口)	【分類根拠】(1)~(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ラットの LD50:6,900 mg/kg(EU RAR (2000)) (2)ラットの LD50:> 5,500 mg/kg(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)) (3)ラットの LD50:9,210 mg/kg(EU RAR (2000)、ECETOC TR (2005))

ジエチレングリコールモノメチルエーテル	
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】(1)～(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギの LD50:6,540～20,400 mg/kg の間(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、ECETOC TR (2005)) (2)ウサギの LD50:9,284 mg/kg(EU RAR (2000)) (3)ウサギの LD50:9,404 mg/kg (Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020) )
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】GHS の定義における液体であり、区分に該当しない。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】データ不足のため分類できない。なお、文献に飽和蒸気圧濃度で実験を行ったとの記載があるため、蒸気として判断した。【参考データ等】(1)ラットの LC0(6 時間):> 飽和蒸気圧濃度(EU RAR (2000)) (2)ラットの LC50(4 時間):> 飽和蒸気圧濃度(文献記載値:1.47 mg/L) (Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))
急性毒性 (吸入:粉末)	【分類根拠】(1)より、区分に該当しない。なお、ばく露濃度は飽和蒸気圧濃度(1.31 mg/L)より高いため、ミストと判断した。【根拠データ】(1)ラットの LC50(1 時間):> 200 mg/L (4 時間換算:50 mg/L)(EU RAR (2000))
急性毒性 (吸入:ミスト)	データなし
皮膚腐食性/刺激性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=6)を用いた皮膚刺激性試験(OECD TG 404 相当、閉塞、4 時間適用、72 時間観察)において、皮膚刺激性はみられなかった(紅斑・痂皮スコア:0/0/0/0/0/0、浮腫スコア:0/0/0/0/0/0)との報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、REACH 登録情報 (Accessed July 2021)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(2)ウサギ、モルモットを用いた Draize 試験において、軽度の皮膚刺激性を示したとの報告がある(Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。
眼に対する重篤な損傷又は刺激性	【分類根拠】(1)～(3)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)ウサギ(n=6)を用いた眼刺激性試験(OECD TG 405 相当、72 時間観察)において、適用後 24/48/72h の角膜混濁スコアの平均は 0.1、虹彩炎スコアの平均は 0.1、結膜発赤スコアの平均は 0、結膜浮腫スコアの平均は 0 であったとの報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、REACH 登録情報 (Accessed July 2021)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(2)ウサギを用いた眼刺激性試験において、角膜影響のない、極軽度の刺激性がみられたとの報告がある(Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(3)ウサギの眼に本物質原液を 5 日/週の頻度で 2 週間(計 10 回)反復適用した結果、軽度の刺激性を超えることはなかったとの報告がある(Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。
呼吸器感受性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	【分類根拠】(1)、(2)より、区分に該当しない。【根拠データ】(1)25 名のボランティアに対する本物質 20%溶液を用いた Maximisation 試験において、皮膚感受性はみられなかったとの報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(2)モルモット(n=10)を用いた Maximisation 試験(OECD TG 406、GLP、皮内投与:5%溶液)において、全例で感作反応はみられなかったとの報告がある(EU RAR (2000)、REACH 登録情報 (Accessed July 2021)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。
生殖細胞変異原性	【分類根拠】In vivo データはないが、(1)より標準的な 2 つの in vitro 試験系で陰性の結果があり、(2)より類縁化合物の情報も考慮し、区分に該当しない。【根拠データ】(1)In vitro では、細菌復帰突然変異試験、ほ乳類培養細胞(チャイニーズハムスター V79 細胞)を用いた染色体異常試験で陰性であった(EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. 1 (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(2)上記知見等から EU、カナダ、オーストラリア、ECETOC は、本物質は変異原性ではないと結論している(EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. 1 (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。
発がん性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
生殖毒性	【分類根拠】(1)～(6)より、区分 1B とした。多数の動物試験で親動物に一般毒性影響がない用量で児動物に生存率の低下、骨格変異、奇形などが報告されている。【根拠データ】(1)ラットを用いた経口投与による発生毒性試験(妊娠 7～16 日)において、親動物に一般毒性影響がみられない用量で骨格変異(痕跡頸肋、波状/癒合肋骨)、奇形(心血管系奇形)の増加などがみられたとの報告がある(CLH Report (2019))。(2)ラットを用いた経口投与による発生毒性試験(妊娠 7～16 日)において、親動物に一般毒性影響がみられない用量で児動物に骨格変異(肋骨の変異合計の増加)と心臓の奇形(1

ジエチレングリコールモノメチルエーテル	
	<p>例)がみられたとの報告がある(CLH Report (2019)、EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. II (2005))。(3)ラットを用いた経口投与による発生毒性試験(妊娠 7~17 日)において、1,800 mg/kg/day で親動物に体重増加抑制、摂餌量減少、胸腺重量減少、児動物に内臓奇形(主に心血管系奇形: 28%)、外表奇形(主に全身浮腫、無尾: 18%)、腎盂拡張(53%)がみられたとの報告がある(CLH Report (2019)、EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. II (2005)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(4)ウサギを用いた経皮投与による発生毒性試験(妊娠 6~18 日)において、750 mg/kg/day で母動物に体重増加抑制、赤血球数とヘマトクリット値の減少、吸収胚/胎児比率の顕著な減少、児動物に前肢の軽度屈曲、腎盂の拡張、大静脈後尿管、頭蓋骨の骨化遅延がみられたとの報告がある(CLH Report (2019)、EU RAR (2000)、ECETOC TR 95 vol. II (2005)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(5)ラットを用いた経口投与による発生毒性試験(妊娠 7~17 日)において、親動物に一般毒性影響がみられない 125 mg/kg/day 以上で生存胎児数の用量依存的な減少がみられたとの報告がある。(CLH Report (2019))。(6)ラットを用いた経口投与による発生毒性試験(妊娠 7~17 日)において、親動物に一般毒性影響がみられない 600 mg/kg/day で胎児の生存率低下、1,800 mg/kg/day で親動物に妊娠期間の延長、生存児数の減少がみられたとの報告がある(CLH Report (2019)、EU RAR (2000))。【参考データ等】(7)マウスを用いた経口投与による発生毒性試験(妊娠 7~15 日)において、親動物が 10%(5/50 例)死亡した 4,000 mg/kg/day で、有生存児腹の比率(1 匹以上の生存児を有する腹数/生存妊娠雌数)の低下、同腹児数の減少、生後 1~3 日の生存率低下がみられた。なお、1 用量のみの試験結果である(CLH Report (2019)、EU RAR (2000)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(8)本物質の代謝物の 2-メトキシ酢酸(2-MAA: CAS 番号 625-45-6)は、催奇形性物質として EU CLP で Repr. 1B に分類されている。2-MAA のヒトにおける体内からの消失半減期(77.1±9.1 時間)はラットの半減期(12.8~21.8 時間)の 3.1~6.8 倍であり、ヒトではラットより低用量で影響が発現する可能性がある(CLH Report (2019))。(9)(1)~(4)より、限度量を超える用量ではあるが、母動物毒性がない用量でも胎児に奇形を含む重大な発生影響がみられていること、及び(8)の本物質の代謝物が催奇形性誘発物質として SVHC 指定物質であること、かつヒトでの体内残留時間がラットより長く、ヒトではラットよりも低濃度で影響が発現する可能性が懸念されることから、Repr. 1B が提案され(CLH Report (2019))、RAC はこの提案に同意した(RAC Opinion (2020))。(10)繊維産業に勤務し、本物質にばく露された可能性がある母親から生まれた出生児に心血管系及び骨格系の異常と大静脈後尿管の 1 症例報告があるが、血中濃度測定も作業環境中濃度も測定されておらず、本物質ばく露との関連性について言及できない(CLH Report (2019)、RAC Opinion (2020))。(11)EU CLP では、現時点では Repr. 2 に分類されている(CLP 分類結果 (Accessed June 2021))。</p>
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>【分類根拠】(1)~(5)より、区分 3(麻酔作用)とした。【根拠データ】(1)ラットを用いた単回経口投与試験において、ふらつき、平衡喪失、アパシーと肝臓及び腎臓障害がみられたとの報告がある(EU RAR (2000))。(2)マウスを用いた単回経口投与試験において、自律神経系影響、嗜眠、チアノーゼがみられたとの報告がある(EU RAR (2000))。(3)ウサギを用いた単回経口投与試験において、不活発、歩行以上、衰弱がみられたとの報告がある(EU RAR (2000))。(4)マウスを用いた単回経口投与試験において、7,128 mg/kg(絶食)及び 8,188 mg/kg(非絶食)(区分に該当しない範囲)で努力呼吸、促拍呼吸、食欲低下、軽度から中程度の虚弱、振戦及び衰弱がみられたとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed July 2021))。(5)ウサギを用いた単回経皮投与試験において、低用量で食欲不振、軽度抑うつ、チアノーゼ、運動失調、軟便、高用量で流涎、鼻汁、虹彩炎、明瞭な抑うつ、努力呼吸、衰弱がみられたとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed July 2021))。【参考データ等】(6)ラットを用いた単回吸入ばく露試験(OECD TG403、6 時間)において、飽和水蒸気(推定値: 1.2 mg/L、4 時間換算: 1.47 mg/L、区分 2 の範囲)で影響がみられなかったとの報告がある(REACH 登録情報 (Accessed July 2021))。</p>
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>【分類根拠】(1)より、経皮経路では肝臓への影響が考えられるが、(2)より、標的臓器には採用しない。(3)より、吸入経路では、区分を特定できない。また、(4)、(5)より、経口経路では、精巣への影響がみられるが、区分に該当しない。以上のことから、データ不足のため分類できない。【根拠データ】(1)モルモットを用いた 13 週間経皮投与試験(6 時間/日、5 日/週)において、40 mg/kg/day(28.6 mg/kg/day、区分 2 の範囲)で腎臓に組織変化はみられなかったが、門脈周囲肝細胞の脂肪化と尿中 Ca レベルの増加がみられ、200 mg/kg/day(143 mg/kg/day、区分 2 の範囲)で血清 LDH の増加がみられたとの報告がある(EU RAR (2000)、ECETOC TR (2005)、AICIS IMAP (2013)、</p>

ジエチレングリコールモノメチルエーテル	
	Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(2)経皮投与試験でみられた肝臓影響について、SIAR では微小な変化であると評価され、EU RAR では肝臓への影響と本物質の関連性は不明であると記載されている(SIAR(1999)、EU RAR(2000))。(3)ラットを用いた90日間吸入ばく露試験(GLP、蒸気、6時間/日、5日/週)において、1.06 mg/L(0.757 mg/L、区分2の範囲)で影響がみられなかったとの報告がある(EU RAR (2000)、ECETOC TR (2005)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。【参考データ等】(4)ラットを用いた強制経口による20日間経口投与試験において、500 mg/kg/day(90日換算: 111 mg/kg/day、区分に該当しない範囲)で胸腺重量の用量依存的な減少が、2,000 mg/kg/day(90日換算: 444 mg/kg/day、区分に該当しない範囲)で体重減少と肝臓及び精巣重量の減少、胸腺皮質のリンパ球減少がみられたとの報告がある。(EU RAR (2000)、ECETOC TR (2005)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。(5)ラットを用いた強制経口による6週間経口投与試験において、1,800 mg/kg/day(90日換算: 840 mg/kg/day、区分に該当しない範囲)で体重増加抑制及び摂餌量減少が、3,600 mg/kg/day(90日換算: 1,680 mg/kg/day、区分に該当しない範囲)で肝臓、心臓、腎臓相対重量の増加、精巣絶対・相対重量の減少、精巣上体内精子の変性及び低精子症がみられたとの報告がある(EU RAR (2000)、AICIS IMAP (2013)、Government of Canada, Hazardous Substance Assessment (2020))。
誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

ジエチレングリコールモノメチルエーテル	
水生環境有害性 短期(急性)	藻類(ムレミカヅキモ)96時間 EC50 > 1000 mg/L(EU RAR, 2000)、甲殻類(オオミジンコ)48時間 EC50 > 500 mg/L(EU RAR, 2000)、魚類(ファットヘッドミノー)96時間 LC50 = 5700 mg/L(EU RAR, 2000)であることから、区分に該当しないとした。
水生環境有害性 長期(慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性ではなく(水溶解度 = 1000000 mg/L、PHYSPROP Database 2021)、急性毒性は区分に該当しないことから、区分に該当しないとした。
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壌中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 化学品(残余廃棄物) : 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器の内容物を完全に除去してから廃棄する。  
空容器は地域の条例に準拠してリサイクル、再利用または廃棄する必要がある。

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

- 国連番号(IMDG) : 非該当  
正式品名(IMDG) : 非該当  
容器等級(IMDG) : 非該当  
輸送危険物分類(IMDG) : 非該当

#### 航空輸送(IATA)

- 国連番号(IATA) : 非該当  
正式品名(IATA) : 非該当  
容器等級(IATA) : 非該当  
輸送危険物分類(IATA) : 非該当

海洋汚染物質	: 非該当
国内規制	
海上規制情報	: 非該当
航空規制情報	: 非該当
特別な輸送上の注意	: 運搬に際しては、容器の転倒、損傷、落下、荷崩れ等しないように積み込み、漏出のないことを確認する。

## 15. 適用法令

### 国内法令

労働安全衛生法	: 【令和6年4月1日新規追加物質・政令番号変更物質】 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) ジエチレングリコールモノメチルエーテル(別名メチルカルビトール)(政令番号: 224 の5)
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1・第4類)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法	: 輸出貿易管理令別表第1の16の項
化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	: 【改正後 令和5年4月1日以降】 第1種指定化学物質(法第2条第2項、施行令第1条別表第1) 2-(2-メトキシエトキシ)エタノール(管理番号: 751)(100%)

## 16. その他の情報

参考文献	: 17322 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) ERG2020 版 緊急時応急措置指針(日本規格協会)
その他の情報	: この SDS は林純薬工業株式会社の著作物です。当該製品の化学物質製品を取り扱う事業者に対して提供するものであり、安全を保証するものではありません。現時点における該当化学物質の情報を全て検証しているわけではありません。当該化学物質について常に未知の危険性が存在するという認識で、製品運搬・開封から廃棄に至るまで、安全を最優先して使用者自己の責任においてご使用下さい。当該化学物質を使用する際は、使用者自ら安全情報を収集すると共に使用される場所・機関・国などの、法規制等については使用者自ら調査し最優先させていただきます。国または地方の規制についての調査は、当社としては行いかねますので、この問題については使用者の責任で処理願います。当該物質の日本語による SDS と他国言語にて翻訳された SDS が存在する場合、内容の相違があるなしに関わらず日本語で記述された文書が優先され他国言語による文書は参考文書とします。